

河川環境保全と魚族の保護運動

ちんかぶ会

山本正明

1. はじめに

美しい川を呼び戻そうと始まった河川清掃活動も10年が過ぎ月日の流れの速さを感じています。その間様々な環境問題や自然保護について住民運動として取り組んできました。

岐阜県の最北端、飛驒の山奥で豊かな自然に囲まれ、澄んだ空気、おいしい水の中で生活している者が、というよりはそういう環境にいるからこそ、わずかな自然環境の変化に敏感だともいえます。悪化していくことに対し、これで良いのだろうかと常に考え身近な自然を大切にしていける心を育てていくことの重要性を感じています。昨今の地球的規模の環境破壊や汚染問題はこれからの人間社会の発展とともに同時に合わせ考えていかなければならない課題となっています。

これらの諸問題は個人レベルというよりは、むしろ国家的なレベルとして重要かつ優先課題でもあります。

今後も私達“ちんかぶ会”の活動は地道にまた勇気をもって行動的に進めながら地域はもとより都市部の人々に対しても声を大にして呼びかけていきたいと考えています。自然と共生できる調和のとれた社会環境が次世代への贈物であると考え人がこれからも増えつづけることを念願しています。

4月から11月迄の間、町中を流れる高原川清掃活動を毎月2回朝7時からやっています。が会の活動の原点としてこれからも息の長い運動としてやっていくつもりです。

2. 北アルプス淡水魚保護観察センター完成

地元神岡町の中心部を流れる高原川は下流で宮川と合流し神通川となり富山湾に注いでいます。源流は北アルプスの峰々から発しています。本流や支流にはイワナ、ヤマメ、アジメドジョウ、カジカ等々淡水魚が生息しています。しかし河川環境が年々悪化してきてその数も減少してきています。地元漁協による放流漁を除けば天然魚のイワナ、カジカなどはやがて幻の魚となってしまう危機にさらされています。そこで河川美化運動ゴミ掃除

だけにとどまらず、川への生き物に一層の住民の関心を持ってもらえるために天然魚の増殖や観察をかねた飼育池を建設する計画が会員より出てきました。さらに子供達にも自然観察や魚の勉強をしてもらう建物のセンター建設にまで計画案が拡大して会の例会などで検討を重ねてきました。会員はもちろん主旨に賛同していただける方々より寄付金を集めどうにか予定の額を確保し、一昨年工事に着手し、今年6月によりやく完成しました。

現在観察飼育池は自然の川に近い流れのある池ですが、イワナ、ヤマメ、アマゴ、カワゴイ、ニジマス、ウグイなどがいます。水の流れ落ちる取り入れ口の浅瀬では産卵行動なども観察され、やがて孵化した稚魚が大きくなれば本流へ戻してやる予定でいます。

建物の横に置いた水槽にはカジカを入れ誰にも見れるようにしてあります。ただ生き物だけにエサやりがなかなか大変なことですが、会員の努力でがんばってやっています。

3. 活動事業報告

(1) 会報「たかはらがわ」発行

昭和58年創刊以来年3回のペースにて第22号まで発刊。新聞折込にて全戸配布し自然環境の大切さを啓蒙。

(2) 河川清掃活動

4月から11月迄毎月第1・3日曜日の朝7時より高原川の清掃活動。

(3) 水生生物による河川水質調査

毎年同一場所の3カ所において水生生物の生息状態を調査し、河川の汚染度をチェックしている。

(4) 国有林の部分林への参加

昭和59年に国有林の一部を借り受け1ヘクタール余の所にヒノキ・スズキを造林し森林の働きを体験学習。

(5) ふるさとイワナ教室の開催

町内小中学校において高原川のイワナの生態をスライドで説明し自然保護の大切さも合わせて講演。

(6) 自然破壊に対する反対運動

国有林の原生林皆伐に対する反対運動や電力会社の水力発電用ダム取水に対する放流の要望、水源地周辺のゴルフ場開発に対する反対運動等々自然破壊につながる諸事

態に反対行動を起こす。

(7) 定例会の実施

毎月1回例会を開催。会費は毎月1000円で例会時に徴集。色々な問題について語り合うが、気軽に参加でき日頃思っている事を述べ合う為お酒も少々出している。

4. 今後の取り組む課題

(1) ゴミ問題について

ゴミ問題を考える時に今の私達の消費生活から見直すことが大切です。大量生産、大量消費の構造は一見安くしかも多品種で文化的生活を支える欠くべからざるものとしてとらえがちです。しかし大量生産による価格統制や規格品による商品のパック化、郊外型SPのため車による買物行動などゴミ化につながる面や単価当りのコスト高の面とマイナス面も生じています。特にライフを預かる女性の意識改革が一番かと思われれます。またゴミ問題は産業廃棄物の方面で考える時建築用廃材から原発のゴミ迄と範囲が広く、中でもそれらの投棄場所が地方の過疎地に集中している点が特に問題となってくる。家庭用から産業界も含め排出されるゴミについて考えると、先に述べた私達の生活や生活基盤にも深く関わってくる。地球的規模の環境問題として身近な生活や広く経済、政治問題にまで皆で考え将来の展望について考えていきたい。

(2) 河川の認識

現在の河川に対する考え方は暴れ川に対する堤防強化や排水路としての流路的な把握方が強い。又漁業権や水利権をもつものの独占物であるかのような考え方など、本来川が与えてくれる様々な多くの恩恵を忘れがちとなってきています。母なる川などと呼ばれているように川とのつき合いを深めながらこれからの河川を見捨てることなく大切にしていきたい。川の中の生き物も河辺の植物なども流域に住む人間と同様懸命に生きようとしています。

(3) 次世代への引継ぎ

ふるさとイワナ教室を地元の小中学校で開催し子供達に自然の大切さを訴えてきました。イワナの水中写真をスライドにして子供達に見せると目を輝かせて見入っています。先日も神岡町の先生方の集まりでも同様の企画をもってもらいその場でも会の考え方を述べて子供に対し、自然愛護の心を植えつけてもらえるよう提言しました。

21世紀を担う子供達が少しでも外界に対し思いやりの心をもって接することが出来るように望んでいます。

5. おわりに

ちんかぶ会の会の名前にした“ちんかぶ”はカジカの地元の方言で清流に住む底生魚で、環境の変化に敏感な魚で昨今の悪化で激減しています。これ以上悪化することがないように又今以上に清流が戻りちんかぶが増えることを願い会のシンボルフィッシュとしました。その為に10年の間河川美化運動を地道に続けてきました。地域の皆さんにも少しは美化意識が広まり川に対する関心も深まってきたようです。しかしながら夏ともなるとジュースやビールなどの空カンが目立ちます。まだまだこの清掃活動も続けていこうと思います。その他の諸事業に対する活動も合わせてやるつもりでいます。幸い念願の北アルプス淡水魚観察保護センターも完成し、あらゆる活動の拠点として大いに活用を考えていきたいと思えます。会員構成の年齢も20～50歳台と幅広くまた夫々職業も違う人が集まっての活動は周囲の人々にも広く滲透していくことを念願しています。次代を担う子供達の育成にも目を向け自然教育の場を作りながら今後の社会環境作りを共に考えていきたいと考えています。緑を失った文明は滅びるとの歴史的教訓を忘れることのないようにしたいものです。年々時代の流れも速くなり、便利さの裏に自然破壊が進んでいることを忘れがちになっています。

自然保護も実は人間保護といった自己中心的なものでなく、広く考えていきたいと思えます。人間も地球上の生き物の中の一つであるとの認識も時には考えながら共生できるような配慮が今後益々重要になってくるでしょう。



観察池の完成（H1.11.7）



観察センター建設に着手（H3.5.14）



水生生物調査